

平成29年度 青年部人材育成事業 実施成果報告書

～質実剛健！駐屯地の中で規律を学ぶ。自衛隊隊内生活体験の世界～

平成29年5月11日

公益社団法人 全日本不動産協会長崎県本部

青年部 委員長 田中勝茂

1 実施概要

全日本不動産協会長崎県本部青年部は、陸上自衛隊の実施する自衛隊隊内生活体験に参加して、「国を守り、公共の秩序を維持する」という任務を有する自衛隊の実際の姿を、自衛隊員と同じような日課で起居宿泊する生活を味わうことで理解するとともに、組織として、若手企業経営者として必要な規律や礼儀作法、物品愛護の精神の習得を図った。

この際、青年部会員のみならず、全日本不動産協会長崎県本部会員の会社に属する若手経営者や入社間もない若手社員などに参加希望者を募り、今後の不動産協会を担う若い人材の発見及び育成を図った。

2 実施日時

平成29年4月18日（火）～20日（木）の二泊三日

3 実施場所

陸上自衛隊大村駐屯地

4 参加者

全日本不動産協会長崎県本部 青年部（田中勝茂、相川 透、田中泰三） 3名

および相川工務店社員（田中義秀、久保祐磨、大村尚行） 3名 合計6名

※申込み時点では7名であったが、体調不良により参加当日に1名キャンセルとなった。

5 実施内容

基本教練、資料館見学、体験搭乗、体力検定、精神教育、救急法、12km行進訓練 ほか

6 実施状況報告

<第1日目（4月18日（火））>

（1）参加者集合～受付～被服交付～概要説明・躰指導～基本教練（8:30～12:15）

8時30分、全日本不動産協会の参加者6名（1名が体調不良により不参加）全員が、陸上自衛隊大村駐屯地の正門前に集合すると、今回の研修に関する調整窓口である大村駐屯地広報室の隊員の方に案内され、駐屯地内へと通された。

本研修期間中に宿泊する外来用の隊舎へと移動して、各々の個人物品を指定された各居室へと搬入した後、大村駐屯地史料館内で、受付を済ませ、被服の交付を受けた。

各居室へ戻り、指定された服装（迷彩服、半長靴）に着替えを済ませ、10時に駐屯地講堂に集合をして、本研修期間中に編成された5つの班に分かれ、研修を担当する部隊の教官・助教との対面と研修概要や躰事項などの説明を受けた。



受付場所へと向かう参加者



交付された迷彩服に着替える参加者



研修担当教官・助教との対面と概要説明

今回は、5つの企業から総勢51名の参加者が研修を受けることとなった。全日本不動産協会の参加メンバーは、他の企業からの参加者とともに、5つの班にそれぞれ分かれて3日間の研修をスタートすることとなった。

最初の研修は、自衛隊内で実施する基本動作の訓練（基本教練）を行い、停止間での動作（気をつけ、休め、方向転換、敬礼など）と行進間の動作（前進め、止まれなど）を行い、本研修期間中に参加者が行う動作の実習を行った。

(2) 昼食～史料館見学、装備品展示・体験搭乗～中隊長への申告～終礼(12:15～17:00)

駐屯地食堂での昼食後、午後は、史料館の見学と自衛隊が保有する装備（高機動車、LAV）の体験搭乗を実施した。普段は見ることの出来ない貴重な史料や最新鋭の自衛隊の装備に体験搭乗することができた。参加者のほとんどが初めての体験であり、非常に満足している様子だった。



貴重な史料の数々を見学する参加者



最新鋭の自衛隊の装備の説明



実際に搭乗して駐屯地内を周回

16時30分、体験搭乗を終えた参加者は、企業ごとに集まり、研修を担当する第16普通科連隊重迫中隊の中隊長へ研修参加に関する申告を行い、本日の課業を終了した。

課業終了後は、班ごとに夕食や入浴、明日の研修準備などを行った。その後、22時20分に点呼、公共場所の清掃をして、23時に就寝した。

<第2日目 4月19日(水)>

(3) 朝礼～体力検定I型～身体の整備(07:30～12:15)

朝礼時に各班、3分間スピーチを実施した後、午前中の体力検定のための準備運動などを行った。8時30分、予定通り体力検定I型（腕立て伏せ、腹筋、3000m走）を行った。19歳～20代前半の新入社員が多い中、全日本不動産協会のメンバーの平均年齢は34歳。体力の衰えと日頃の運動不足を痛感させられる結果であった。



体力検定I型（腕立て伏せ）



体力検定I型（腹筋）



体力検定I型（3000m走）

(4) 昼食～中隊長講話～救急法・心肺蘇生法～終礼(12:15～17:00)

午後は、研修を担当する部隊重迫中隊の中隊長による講話があり、自衛隊の概要についてのお話や新入社員や新たに組織の中で活躍していく参加者に向けて、激励の言葉などがあつた。

中隊長講話のあとは、衛生隊員による救急法と心肺蘇生法について、実習をした。実際の社会生活の中でも役立つような内容に、参加者は真剣になって取り組んでいた。



救急法（担架搬送）



心肺蘇生法（AED実習）

16時30分、本日の課業を終えて、3分間スピーチや明日の訓練の事前教育などを各班実施した後、終礼を行った。終礼後は、各班、夕食や入浴を済ませ、明日の訓練のための準備を行い、訓練に備えて静養した。

<第3日目 4月20日（木）>

（5）朝礼～徒歩行進訓練（07:00～12:15）

研修最終日、この日は午前中に大村市内にある琴平岳まで約12kmの徒歩行進を行うため、昨日より早い朝礼となった。

朝礼後、準備運動を行い、大村駐屯地から琴平岳まで徒歩行進を行った。

各班には、背のうと呼ばれる自衛隊のリュック（推定20kg程度）を渡され、班のメンバーで交代しながら担ぎ、琴平岳を目指して歩いた。琴平岳手前がある999段の階段を、仲間同士で励まし合い、助け合いながら登り頂上へ到着。

到着後、しばらく休憩した後に、駐屯地を目指して再び徒歩行進を始めた。12時頃、駐屯地に到着した。足の既往症などのため、参加者のうち2名ほどが、途中で救援車両に乘車し、移動したが、ほぼ全員が12kmの徒歩行進を歩ききった。到着後は、整理体操などをして、疲れた体をほぐした。



琴平岳を目指して徒歩行進



999段の階段が参加者の行く手を阻む



遅れる者を後ろから押して助け合う



見事、琴平岳登頂 成功！

(6) 昼食～所感文作成～被服返納、清掃～中隊長への申告～離隊(12:15～16:15)

昼食後、各居室へ戻り、本研修の三日間を振り返って所感文（感想文）の作成を行った。その後、借用していた被服の整備と返納を行い、隊舎内の清掃を実施して離隊の準備を行った。

16時、企業ごとに集合をして、初日と同様に、本研修の修了申告を、担当した重迫中隊長へ行った。申告終了後、駐屯地の隊員の方たちの見送る中、企業ごとに離隊した。

全日本不動産協会長崎県本部の参加者は、駐屯地の外に出て、再度集合し、異常の有無等の確認をした後、解散をした。



3日間を通して、組織の規律と仲間の大切さを学んだ参加者

※ 実際の時程については、別紙第1「平成29年度 青年部 人材育成事業実施時程（実績）」参照

7 その他

参加者感想：別紙第2「青年部 人材育成事業への参加感想」参照

担当者総括：別紙第3「青年部 人材育成事業を終えて」参照

平成 2 9 年度 青年部 人材育成事業 実施時程 (実績)

全日本不動産協会長崎県本部 青年部

時 間	第 1 日	第 2 日	第 3 日
0 6 : 0 0		起床 (整頓・洗面) 点呼 朝食 7:30 3 分間スピーチ 朝礼	起床 (整頓・洗面) 点呼 朝食 7:00 整列 朝礼 準備運動
0 8 : 0 0	8:30 青年部 集合 9:00 受付/被服交付	国旗掲揚 準備運動	徒歩行動訓練(12k m)
1 0 : 0 0	10:05 広報室長挨拶 班編成/自己紹介 研修概要・躰事項説明	体力検定 I 型 (腕立て、腹筋、3000m走)	
	11:00 基本教練	11:00 身体の整備	
1 2 : 0 0	12:15 昼食	12:15 昼食	12:15 昼食
1 3 : 0 0	史料館見学/体験搭乗 16:30 中隊長への申告 3 分間スピーチ	13:00 中隊長講話 14:00 救急法・心肺蘇生法 16:30 中隊長への申告 3 分間スピーチ	13:00 所感文作成 14:00 被服返納/清掃 離隊準備 16:00 中隊長への申告 離隊/解散
1 7 : 0 0	国旗降下 終礼 (夕食・入浴) 翌日の訓練準備	国旗降下 終礼 (夕食・入浴) 翌日の訓練準備	
2 2 : 2 0	点呼 清掃	点呼 清掃	
2 3 : 0 0	消灯	消灯	

青年部 人材育成事業への参加感想

○一つ目は、自衛隊の方は、時間にルーズではないことがわかりました。

二つ目は、重たいリュックを担いでの山登りはとてもきつかったです。

三つ目は、集団行動について、一人一人がきちんとやらなければ罰を受けるので、やはり一人はみんなのために、みんなは一人のためにしなければならないことを学びました。

(入社三年目 若手社員の感想)

○43歳で参加して、5年後同じような研修に参加できるかと言うと無理ですね。

自衛隊法3条、徒歩訓練、生活規律、集団行動など、普段体験できないことばかりで、民間人には刺激的でした。

自衛隊の方々のおかげで、我が国の平和が保たれているという現実が今回理解できました。

いろいろな研修がありますが、人生に一回は必要な研修だと思います。

ありがとうございました。

(43歳 若手経営者の感想)

○4月18日から20日まで3日間、陸上自衛隊大村駐屯地に体験入隊してきました。

全日長崎県本部青年部の研修です。青年部からの参加者は6名。田中青年部長を筆頭に、Aさん、Aさんの会社のTさん、Kさん、Oさん、それと私。

この体験入隊プログラムへの参加は、私にとって10年来の悲願でしたが、振り返って、想像以上に素晴らしい研修でした。この研修を通して学んだことは、技術的には、自衛隊式行進のやり方、ベッドメイキング、応急処置法などでした。それはそれで大変有益な内容だったのですが、それ以上に大切なことを学びました。

それは、連帯責任の大切さと意味合い、そしてチームワークでした。

誰かがしくじると同じ班みんなが連帯責任。我が班もみんなで大汗をかきながらスクワットしたり腕立て伏せをしたりしました。

その中でふと感じたのは、「有事においてチーム(班)は一蓮托生、一人のミスがチーム全体を窮地に追いやる。それを疑似体験させる手法が連帯責任なのであり、連帯責任は、皆が生き残るための先人の知恵なのである」ということ。そして、戦いは個人の力というより、チームワークの優劣が勝敗を分けるということでした。

まあ、実際のところ、我々体験入隊組が受けた連帯責任など可愛いものでしたが、ガチンコの新人隊員さんたちは、ここでは書けないくらいハードな連帯責任をとらせられていました。きっと彼らは、素晴らしい自衛隊員に育つのだろうと思います。

書きたいことはまだまだ沢山ありますが、「簡潔に」とのことでしたので、この辺で筆を置きたいと思います。

最後になりますが、本プログラム参加を実現するために、大変骨を折ってくださった田中勝茂さん、ありがとうございました。

今回の貴重な体験入隊の経験を今後の人生に活かしていきたいと思っています。

(41歳 若手経営者の感想)

青年部 人材育成事業を終えて

全日本不動産協会長崎県本部
青年部 委員長 田中勝茂

今回、『質実剛健！～駐屯地の中で規律を学ぶ！自衛隊隊内生活体験の世界～』というテーマで、平成29年4月18日～20日の間、陸上自衛隊が実施する自衛隊隊内生活体験に参加させていただきました。

当初の予定より参加人数が減りましたが、青年部3名と当協会に所属する会社の若手社員3名の計6名での参加となりました。

私たち以外にも、4つの企業の新入社員の方々が一緒に研修を受け、5企業 51名の多種多様な職種と年齢層の参加者とともに本研修を受けられたことをうれしく思います。

3日間を通して、「国を守り、公共の秩序を維持する」という任務を有する自衛隊という組織、そして、その組織の中で、規律正しく生活を行い、常日頃から有事に向けた厳しい訓練に取り組む自衛官の皆様の実際の姿を、間近に見て、体験することにより、理解することができました。そして、組織としての必要な規律や礼儀作法、物品愛護の精神についても、実体験をもとに理解することができたことは、非常に有意義な体験であったと言えます。

「我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つため、我が国を防衛することを主たる任務とし、必要に応じ、公共の秩序の維持に当たる」自衛隊において、自衛官一人一人が、「事においては危険を顧みず」任務にあたる意識の高さや普段からの規律の維持、統制のとれた部隊の姿に、感心させられた3日間でした。

また、51名の参加者が、企業や性別、年齢など関係なく、混成の班を作り、初めて会う仲間と3日間の生活を共に過ごしていくうちに、仲間意識が芽生え、最終日の12km徒歩訓練では、重い装備を、班の仲間同士でお互いに気遣いながら、運び合い、励まし合う姿に、この研修の成果が現れていると感じました。

最初の基本教練という訓練の際に、指導にあたって頂いた助教の方が、「集団で行動する際に、その集団の力を最大限に発揮するためには、一人一人が意識を揃えなければならない。そのために、規律が必要であり、基本教練もその一つです。」と仰っていました。

これは、自衛隊の世界だけではなく、我々の一般企業にも言えることだと思います。

企業は、社員一人一人が集まり、一定の経済活動を行う集団として成り立っています。大きな会社もあれば小さな会社もあるでしょう。しかしながら、会社の規模に関わらず、その会社の最大限の力を発揮するためには、社員一人一人が意識を一つにして、社業に専念する『一意専心』の心が大切であることを、本研修を通して改めて学ばされました。

そして、会社にとっては、人材（人財）が何より大切であり、継続的に人材育成を行うことが、その組織を強くすることに繋がるのだと確信しました。

本研修に参加することで、日常味わえない自衛隊という組織の中での貴重な体験とその中で学んだことを今後の社業や当協会の運営に活かしていきたいと思えます。

青年部としては、今後もこうした人材育成事業を企画し、青年部および会員の皆様へ還元できるように努めて参りたいと考えております。

最後に、本研修を実施するにあたり、ご協力いただいた、陸上自衛隊長崎地方協力本部および陸上自衛隊大村駐屯地広報室ならびに陸上自衛隊第16普通科連隊重迫中隊の皆様に、感謝申し上げます。